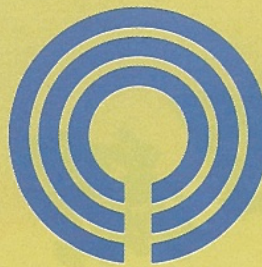


1989	SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
4	•	•	•	•	•	•	1
	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28	29
	30	•	•	•	•	•	•

# 備える。

準備。予備。整備。装備。守備。警備。  
 そなえる…用意する、そろえる、用心する  
 防備。常備。完備。不備。具備。兼備。  
 そなえ…したく、用意、警戒、防御  
 備品。設備。備蓄。備員。備考。備忘。  
 そなわる…準備ができる、身に付く  
 ●●●ソナエ アレバ ウレイナシ!!



かわさき  
 防災広報紙

NO.

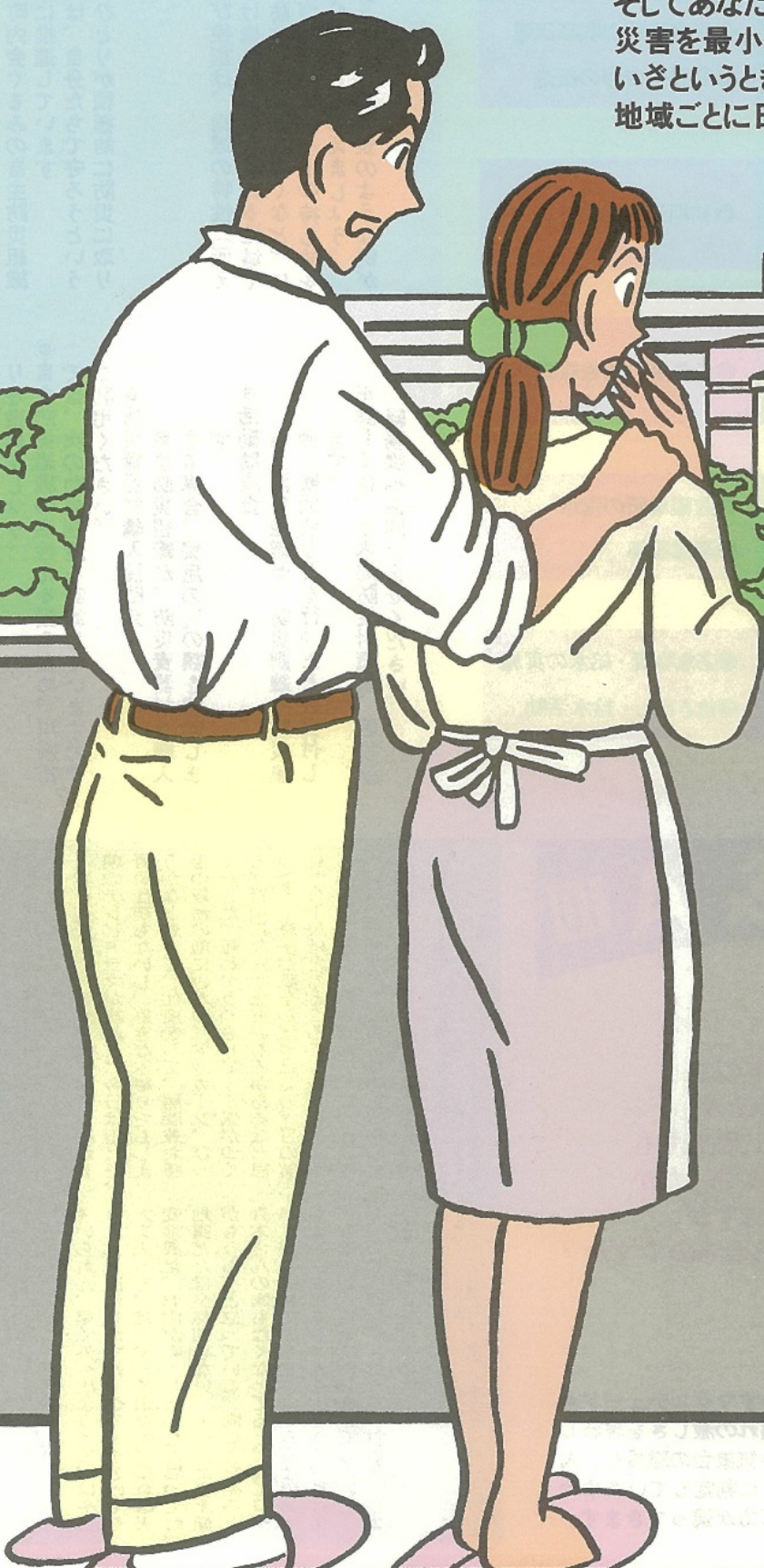
56

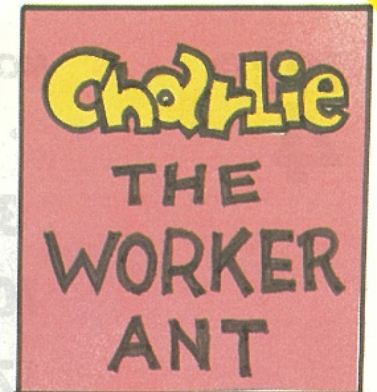
1989年(平成元年)3月31日発行  
 発行所 川崎市  
 編集所 土木局防災対策室  
 〒210 川崎市川崎区宮本町1番地  
 TEL (044)200-2111内線2841

● 毎月15日は川崎市民地震防災デーです。

何もかも他人に頼って生きている現代人。  
 それが社会の進歩の証とも言えますが、  
 大きな落とし穴があります。  
 例えば大地震のとき。  
 停電、電話の不通、水道管の破損。  
 そんな最悪の状況下で火災が発生したらどうしますか。  
 被害が広域に及ぶと消防隊の活動も制限され、  
 十分な救助が期待できません。  
 自主防災組織はこんなときのためにあります。  
 そしてあなた自身がメンバーのひとり。  
 災害を最小限にいとめるのは、自らの努力です。  
 いざというとき組織的な防災活動が行なえるよう、  
 地域ごとに日頃からよく話し合ってください。

天は自ら助ける者を助ける。





# 組織力は、地震に勝つ。

## 自主防災組織等の編成及び役割の一例

本部長(町会長)	平常時の活動		災害時の活動	
	情報班	●防災知識の普及 ●講演会、映画 ●情報収集伝達訓練	●災害情報の収集伝達 ●避難勧告等の伝達	
	消火班	●火気使用設備器具等の点検 ●初期消火訓練	●初期消火活動	
	救出救護班	●応急手当の知識の普及・訓練の実施	●負傷者の応急救護	
	避難誘導班	●避難路・避難場所の周知 ●避難訓練 ●危険箇所、要介護者などの調査、把握	●避難場所の指示 ●避難誘導	
給食給水班	●炊飯用具等の調達 ●炊き出し、給水訓練	●応急物資・給水の実施 ●炊き出し・給水活動		

**みんなで守ろうわが町わが家**

川崎市では、町内会ぐるみの自主防災組織づくりを積極的に推進しています。自分たちの町は、自分たちで守ろうという考え方で、一人ひとりが積極的に防災に取り組みましょう。

●組織の編成及び役割は、地域の特性(例えば、水害やがけ崩れのおそれのある地域ではそれぞれ水防班、巡視班を置くなど)に合わせて組織づくりやメンバーの持ち味を生かした役割分担などを考えましょう。

一応の目安として、左の表のような例が一般的です。

●あなたの町内会で、自主防災組織の結成の呼びかけや防災訓練参加の要請がありましたら、積極的に参加し、災害に強い町づくりに進めましょう。

●自主防災組織の活性化を図るため、川崎市では、次の助成制度を実施していますので、ご利用ください。

- 防災資器材購入補助金
- 活動助成金

自主防災組織が、防災訓練や防災集会・映画会などを行ったとき交付します。

※詳しくは、土木局防災対策室、区役所総務課へお問い合わせください。

## 自主防災組織リーダー研修会

昨年に引き続き 自主防災組織等のリーダーの方々を対象に、防災についての研修会が各区ごとに開催されました。

防災対策全般にわたる講演、質疑応答に加え、自主防災組織の活動を進めるために作成した映画・ビデオ『備える—まちの自主防災組織』を上映しましたが、この映画・ビデオは貸出しもしていますので、自治会・町内会での会合などの際に、是非ご利用ください。



## 防災Q & A 10

**問**

地震があるとすぐに震度3あるいは4とか、速報で出されますし、私たちも今の地震がどれくらいあったかということを考えますが、震度とは何をもとに決められるのですか？

**答**

地震そのものの大きさを表わすマグニチュードと違って、震度はある地点での揺れの激しさを表わしていますが、現在は、測候所や気象台の職員が、人体感覚や建物などの揺れをもとに判定していますので、地盤の状況等によって感じ方が違ってきます。

## 体験談 55

長野県西部地震の記録より

『まさか王滝に！』

「夫を送り出し朝食の後片づけも終わり、朝のテレビドラマが終わり、今日は雨だ、野良仕事もないし、好きな木彫りでもしようかなと思っ、仕度をして、居間兼お膳の飯台の前にいた。ドッカーン、びっくりにした。思わずうっふして……気がつく……背中になんか生温いものがあるなど思……息子が私をかばった。目の前見たら1尺ほどのところに、電子レンジがころがってるし、整理だんすがひっくり返ってる、神棚が落ちて、まるで、物のすき間にいるみたいだった。こんなことし……」

「やいれん、早く外へ出ようって、はやく火は全部消したでね。このまま逃げても大丈夫って、はいずって出た。これは天変地異だ、お山が噴火したんだと思っね。地震とは全然知らない。外へ出たら土煙がもうもうと立っている。向こうを見ると森本さんの家もなくなっているし、道に口が……下みると作業所がない。おばあちゃんも出てきて、私は年よりだでね、これでおしまいでもいいで……いや逃げなダメだ……、おし合いなき間にいるみたいだった。こんなことし……」

長野県西部地震 昭和59年9月14日8時45分発生 震源：本郡王滝村、マグニチュード6.8、死者29人、負傷者10人、建物全壊、流出14棟 (死者及び建物流出は、主として大規模なけずれと土壌による)